司書合格体験記

文学部国文学科卒　有　山　尚　利

私は2017年12月に京都府宮津市立図書館での職員採用試験に合格し、2018年４月より公共図書館の図書館司書として勤務することになりました。今回は今までの経験を報告しようと思います。

近年、図書館司書の採用は増加傾向にありますが、試験日程などが同じ時期になるため受験できる数は少なく、自身が望む勤務地・館種の採用試験が実施される可能性はさらに限られます。そのため採用試験が出れば私は全国どこへでも行きました。宮城・富山・東京・神奈川・愛知・滋賀・京都・大阪・兵庫・岡山・高知・大分・熊本、鹿児島・沖縄。飛行機に乗り遅れて帰れなくなったり、道に迷ったり、台風が直撃したりハプニングにも見舞われましたが、いい思い出です。経験上、受験票とお金さえ持っていれば、最悪なんとかなります。

採用試験の形式は地方自治体によって異なりました。一般教養試験と司書の専門試験（多岐選択式）と論文・面接試験が基本でしたが一般教養しかない試験や最終試験で集団討論を行う場合もあります。専門試験にも特色があり、その土地の出身作家の作品を問う問題などもありました。私立学校の採用試験では作文と面接が多かったです。今回合格した宮津市の採用試験は一次試験が筆記試験、二次試験が市長を交えて一対複数の面接試験でした。試験勉強は公務員試験の問題集と司書試験問題集『司書もん』を使って勉強していました。

自分の出身とは異なる県や自治体の試験を受ける時は、まず試験を受ける前にその土地の事情や環境、図書館について細かく調べ、できれば実際に見に行くことが重要だと思います。面接の時の質問もその土地についての質問が多くありました。沖縄の学校司書採用試験を受験した際、「離島の学校を何校くらい知っていますか？」と聞かれて咄嗟に答えられなかったのが今でも印象に残っています。県や市であれば人口や図書館の利用者数、学校であれば生徒数や教員数まで把握するのは当然のことで、採用後のことも把握しておく必要があります。例えば県職員として採用された場合は県立図書館だけでなく県立学校の図書館に配属されることがあることや、残業や出張があることなども理解しているか面接でよく聞かれました。就活中に地方試験は出身者の方が有利だとよく言われ、実際に最終面接まで残っている他の受験者は地元出身ということが多かったです。ただ遠方であれば遠方であるほど最終面接に残ることが多かったので、あまり気にする必要はないと思います。また大学既卒者であれば司書経験も重視されます。私は大学を卒業してから国語科非常勤講師を１年、非常勤学校司書を３年間経験しました。経験を積むにつれて最終面接まで残る回数も増えました。学生時代にも小学校の図書室ボランティアや学校図書館アルバイトをしていたこともあり、できる経験は積極的に積んでおくとよいと思います。

それからこれは個人的な意見ですが、就活中もできるだけ多くの図書館を見学するとよいと思います。試験を受けに行った時も必ずその土地の図書館を見に行っていたのですが、常に多くの発見があり、自分がどんな司書になりたいのか考える契機にも繋がりました。

最後に宮津市の最終面接を受けに行った際の事を少しお話しします。最終面接試験の当日、時間に余裕があったので散髪をしようと考え、近くの散髪屋さんに行きました。するとそのお店のご主人は宮津市で散髪屋を経営して４代目という生粋の宮津市民の方で、これから面接だと言うと面接向けの髪型にばっちりセットしてくださり、昔の宮津の様子から食料品の物価まであらゆることを丁寧に教えてくださって、コーヒーまでご馳走になりました。おかげで落ち着いて面接に臨めました。採用試験は本当に、縁のものだと思います。この４年間は本当に七転八倒でしたが諦めずに努力を続けて良かったと今では思っています。これから司書を目指す方もどうか頑張ってください。以上が私の合格体験記です。

文学部文化史学科卒　漆　川　万　実

今年度、４月から徳島県職員の司書として内定をいただきました。司書を志してから内定までの、体験を記したいと思います。

大学入学当初は高等学校教諭を目指し、資格取得に励んでいましたが、生涯学習について学ぶ中で、司書や学芸員に対して、強く興味を持つようになっていきました。教職免許を取得後、就職のためというより、様々な分野を学びたいという好奇心から、司書と学芸員の資格取得にも挑戦しました。

昨年の春、運転免許更新のため訪れた地元徳島県の免許センターで、偶然、県職員の採用案内パンフレットを手にし、司書の採用があることを知りました。説明会に出席したところ、県内の高等学校か、美術館や博物館などと連携している県立図書館に配属されるとうかがい、これまでの自分の経験や資格が最大限に活かせるのではないかと感じました。

採用試験まで時間がなかったため、次年度の採用を視野に、今年は模擬試験のつもりで挑むことにしました。一般教養は、センター試験時の記憶を信じることにし、対策は専門試験だけに絞りました。まず、同志社大学図書館情報学研究会 DUALIS に参加させていただきました。図書館や各種メディアに関する情報を共有し合ったり、意見を交換し合ったりすることで、視野を広げることができ、貴重な経験になったと思います。また、DUALIS で使用していた問題集と同じもの（『司書もん』１～３巻）を自分で購入して解きました。参考資料は、大学図書館で借りることにし、その際、図書館と少しでも関係すると感じたものは、分野に拘らず、出来るだけ幅広く目を通すようにしました。

２次試験以降、小論文と面接の対策では、上記に加え、自治体の情報をホームページやパンフレットから収集しました。司書の立場から自分なりに意見を述べられるよう、あらゆる質問を想定して、ノートにまとめました。引き出しが増えるので、落ち着いた対応ができると思います。公務員面接試験対策の本も、何冊か目を通しておきました。

結果として、幸運にも内定をいただきました。司書資格関係の授業はもちろん、教職免許取得の過程で学んだ発達心理学や、学芸員の資料保存、また、文化史学科での世界宗教や思想といった、様々な知識・経験も役立ったと感じています。司書は情報を扱う職業なので、知識や経験は、いくらあっても無駄になることはないと思います。何事にも、一所懸命に取り組むことが、巡ってきたチャンスを掴む、最大の近道だと感じます。ご指導くださった先生方をはじめ、今までお世話になったすべての方々に、心から感謝しております。私の拙文が少しでも、お役に立つことがあれば幸いです。

文学部美学芸術学科　松　谷　侑　奈

このたび、平成30年４月採用の堺市の司書職にて採用予定の通知を頂くことが出来ました。今回の司書職の受験について、拙筆ながら報告させていただきます。

私が就職活動をまじめに考え始めたのは早い方ではありませんでした。公務員の教養試験の勉強を始めたのは３回生の11月頃だったように思います。司書か学芸員になれたらいいなという思いはありましたが、学部卒では難しいかとも感じていたので、民間企業、市の行政職と並行して受験することにしました。結果として、民間企業では教育関係の会社から１社、公務員としては神戸市の一般行政職、そして今回の堺市の司書職から内定（合格）を頂きました。

私は関西で働きたいという思いが強かったので、司書職を受験する際も関西に絞っていました。その分、関西圏で受験日が重複していない試験は出来るだけ応募するようにしていました。大阪府、大阪市、生駒市の試験は一次で落ちましたが、太子町、宝塚市では補欠１位で名簿登録、堺市では合格を頂くという結果となりました。堺市を受験する前に太子町の結果が出ていたので、少し自信を持てた状態で堺市を受験することが出来ました。私は教養試験対策を通信

講座で行い、専門試験対策では問題集を１冊とネットで手に入れた問題例、授業での資料を参考にしました。民間や他の公務員試験と並行しながら対策を行っていたのもあり、ほぼ１人で対策を行っていました。しかしながら友人からはDUALISの活動や勉強会について話を聞いていましたので、司書を目指される方は一度のぞいてみるのも良いかと思われます。

面接では「どんなことをやっていきたいか」という点がどの自治体でも質問されたように思います。自分の経験したことや興味をもったことがあれば話す材料になるので、他の図書館でのイベントや試みなどに足を運んでおけると良いかもしれません。私の場合は民間と行政と並行して就職活動を行っていたので、民間では何が出来て何が出来ないか、同様に行政では何が出来て何が出来ないかを合わせて説明できたことが役立ったと感じています。また私が受けたのは全て市や町が運営する図書館であったので、その地域についても多少問われることはありました。

今回合格をいただいた堺市は今年、司書職としては多めの３人の募集を行っており、この年にあたったのは運が良かったと感じています。先日懇親会で他の採用予定者と会ったのですが、私を含めた３人が今年卒業予定の学部生でした。私はずっと経験者が有利だろうなと考えていたのですが、今回のように今後の可能性に懸けて採用して下さる自治体もあるので、迷われている方はぜひ受験してみてください。最後になりましたが、他の大学の方と話して、同志社の司書課程がかなり充実していることを知りました。お世話になりました先生方、また実習先の皆様に末筆ながら深くお礼申し上げます。